館山市学校再編調査検討委員会　各委員の意見結果

令和6年8月26日 教育総務課（学校再編推進室）

（留意点） 各委員の発言については、委員名が特定されない配慮をしたうえで、掲載しています。

1　神余小学校「以外」の学校再編計画（素案）について

委員	賛同する	賛同しない	その他	選択理由・意見
A	○			● 市内の学校が統合されていく寂しさや、過疎化が更に進むのではないかという不安もあるが、児童数の減少、校舎の老朽化など、より良い環境での教育が難しくなっている現状から将来を担う子供達に豊かな教育環境を確立する必要がある。 ● 今回の再編に関して、根拠となる調査、他地域への視察、子供達にとってより良い方法・時期など、細かく丁寧に考慮し、地区住民への説明、話し合いを進めてきていると感じています。是非ともこの再編が子供達にとって、より良いものになることを願います。
B	○			
C	○			● 各学校の保護者が望むのであれば、再編すれば良いと思う。
D	○			● 中・長期的な見通しのもとに立案された無理のない計画になっている。 ● ある特定の地区のみを対象としたものではなく、市全体で適正規模の学校にすることを目指したものであり、これにより子供達のより良い学びができ、生きる力を育成することが期待される。 ● 小学校においては、多くの人数の中では対応が厳しい子供のための小規模特認校という受け皿も準備されている。
E	○			● 限られた時間内で「決めて実行する」べきテーマであり、各地区の理解も得られているようなので「問題なし」と考えます。
F	○			● 「適応が苦手な子が房南中へ転向しました。中学校にも絶対いるはず。よって、どうしても小規模特認校を残すのであれば、中学校も残して欲しい」との委員意見があったので、大規模校に馴染めない子の受け皿として、希望する中学生は南房総市内の中学校への編入を可能にすべき。 ● 移住者増加のため小規模特認校のカリキュラム等をPRすべき。 ● 小規模特認校に通わせたいと魅力は感じるが、最も遠い地区ではスクールバス片道60分→1日2時間→週5日10時間→1ヶ月40時間 これだけの時間を割いて通学させる家庭は少ない。最も遠い船形・那古・九重地区から通う家庭は、ごくまれと考える。 ● 普通の小学校教育に満足しない家庭は、特色のある学校を求め、都市部から子育て世代が移住する。 特色のある学校は私立が多く、今回打ち出した小規模特認校のカリキュラム・環境の良さを移住希望者へ全面に押し出せば、公立校なので更なる子育て世帯の移住者が期待できる。 ● これだけ少子化が目に見えて進んでいるので、ただの大規模統合で終わるのでなく、子育て世代の移住者を呼び込む改革を行うべき。
G			○	● 神余地域の理解が得られてないので神余小を残さざるを得ないのであるなら、市内に

委員	賛同する	賛同しない	その他	選択理由・意見
				2つ小規模な小学校が残る形になるため房南地区の小規模特認校は不要
H	○			● 現在の状況から予測されたデータ及び、地域の現状に即した適切な計画である。 ● 委員会の意見と重複しますが、計画の通りの再編となると予算としては大きな削減となるが、その際の予算を可能な限りバス通学の不公平削減に尽力頂きたい。60分のバス通学が果たして適正であるか。（現状の最大歩行通学時間は不明ですが、）最低でもその時間か、それ以下となるようお願いしたい。 ● また広域になる為、学校を中心とした部活動（特に中学生）・校庭を運動場や遊び場としている（特に小学生）にも配慮した通学以外のバス運用をお願いしたい。少し逸れますが、「かいまーる」「チョイソコ」等の地域交通と連携し、子供が過度な負担なく部活や遊びを仲間としっかりとでき、安心して行動範囲が広げられるような側面支援（無償もしくは安価）とし、なおかつ高齢者や保護者（有償乗車）も見守れるような制度であって欲しいと願います。 ● 提供されたデータ以上に、少子化の進行がより強く、かつ子供の市外通学者がより増加する事が想定されます。データではないので、踏まえる事はできないが、そこも想定した数値で再編した学校創りを検討して頂きたい。もしくは、「流出しない」・「流入が期待される」 特色ある学校創りも一つであると思います。
I	○			● 当該検討委員会にて長く協議してきた結果である素案に対して異論はありません。 ● 「小規模特認校」の案は、個別性の高いかかわりを重んじていくことを踏まえても、子供達の選択肢の幅が広がる面でも、良案であると感じました。また「地域の宝」である子供達を社会全体で支えていくことは必要だが、公費負担も度外視は出来ず、どこかで折り合いはつける必要があります。その中で、学校の設備や教室の許容数、こども園の併設状況（予定）などを考慮すると、房南学園を使用せざるを得ないと判断します。
J	○			● 教育環境の充実はもちろんですが、統合によって児童生徒数が増えることで、子供達は多様な友人と出会い、様々な人間関係を築くことが出来るようになると思います。 ● 館山市の学校再編計画は、将来に向けた良好な教育環境を確保する重要な取組であり、館山市全体の教育の質を向上させる可能性があると思います。小規模特認校の設置や学区外からの通学促進など、包括的な対策が進められており、子供達の「生きる力」を育成する前向きな取組として支持します。
K	○			● 小規模な再編では、近い将来同じ課題（再編）が発生する可能性が大である。クラス替えが出来る規模に再編する必要性がある。教育は「人格の完成」を目指しており、子供達は集団の中で「学び合い」・「協力し合い」切磋琢磨することを通して、様々な資質や能力を伸長し、人格の完成に一歩一歩近づいていくものと考えます。次世代を担う子供達のために学校再編をする必要があると思います。
L	○			● 会社同様、内容によって減少する道を委員会で承認せざるを得ない、これが現状
M	○			● 児童数減少や市の財政改善を考慮すると、現在の小中学校を整理・減数することに賛成です。再編によって校舎が使われなくなる一部地区から、地域に小学校がなくなるのは寂しいという声が上がっていることは気になりますが、神余以外の9地域の考える会と保護者が、再編に賛成しているということであれば、よろしいのではないか。
N	○			● 部活動や勉学において、切磋琢磨も必要だと考えます。もしも、事情等に変更があれ

委員	賛同する	賛同しない	その他	選択理由・意見
				ば再考も必要かもしれませんが、保護者や地域住民の合意も得られるのであれば、賛同いたします。
	１３		１	

● 委員会判断　☞「神余小学校「以外」の学校再編計画（素案）について」は、満場一致により『賛同する』に決定

※「その他」とした委員１名の理由は、神余小学校の動向に伴うものであり、会議の判断により「満場一致」となった

2　神余小学校に関する学校再編について

【 議事項目 】

（論点①）　選択肢	（論点②）　最善と考える方式について
神余小学校を「単独校として存続すべき」	現状の学校形態のまま存続すべき
	房南小ではなく、神余小を小規模特認校として存続すべき
	房南小とは別に、市内２校目の小規模特認校として存続すべき
	その他 （どのような方策が良いのか）
神余小学校を「単独校としての存続は出来ない」	学校施設としては活用しない（素案どおり）
	小規模特認校の一部、神余キャンパスとして活用する（新プラン）
	その他 （どのような方策が良いのか）
その他	（どのような方策が良いのか）

【 （論点①） 神余小の単独校としての存続に関する委員意見 】

委員	存続すべき	存続出来ない	その他	選択理由・意見
A		○		● 神余地区の小学校に対する考えや思い、地区での活動は理解できないわけではなく、気持ちは充分わかるが、今回の市全体の学校再編としての取組として考えると、一部の地域のみ特別ではないのか、不公平にならないのかと思う。
B		○		● 神余校舎には１学年 15 人規模を収容することは出来ないため。
C	○			
D		○		● 市全体で適正規模の学校をつくるという再編の根幹を考えると、極小規模の学校を単独校として存続することは、あり得ない。
E		○		● 神余キャンバス（案）では NG との意向である以上、やむなしと考えます。
F	○			● 神余小在校生を含め 10 人教室では入りきらなくなる可能性もあるので、神余小はそのまま現状の学校形態を存続し、房南小は小規模認定校とする。 ● 神余小保護者の意見に、神余小に転校し学校に通えるようになったとあったため。 ● 想定外の津波が発生した事を考え、子供の命を守るため海から離れた場所に学校を残しても良いのでは。 ● 神余地区以外は、統合に対する反対意見や慎重な意見が少ないが、神余は地区をあげ全保護者が統合に反対している。市民への神余小を残す説明はそれで充分ではないか。 ● 神余を盛り上げようと移住促進もしている、将来の納税者を育てるため市として子供を増やす移住促進の成果は評価すべき。 ● 市予算の中で小学校再編に伴い削減可能な経常的な費用は年間 1.2 億と聞いたが、神余小を残しても 10 校が５校となり単純計算だとしても年間 0.6 億円の削減に繋がる。また、神余小の運営費は他の小学校に比べても低いため。 ● 講堂も 80 年以上前から使用されている文化財並みの建物、建て替えは不要だと感

委員	存続すべき	存続出来ない	その他	選択理由・意見
				じる。 ● 歩いていける距離に学校が無くなってしまうと、地区の子供が減り地域が更に弱くなってしまうので、神余地区のように残して欲しいということであれば、残しても良いのではないかと思う。その一方、財政面を考えると無くしても良いとも思う。
G		○		● 房南学園を使用した小規模特認校を設置した方が良いため。 ● 過去に2年間、毎週 1 回ほぼ 1 日神余小学校にて仕事をしていたが、このまま神余小学校を残すということが子供達にとって本当に良いかと考えた場合、私の答えは良くないと思うため。
H		○		● 神余地区の意見は、理解しますし賛同もしますが、本委員会で何度もお話した通り、現状維持を不可と理解して始めているものと理解しています。その中で、追加で神余小を小規模特認校指定に（ほぼ現状維持）というプランは、館山市全体やデータ・現状から目を背けた案です。 ● 神余小／房南小を見学させて頂き、また資料において他地区にはない特色や個性も教えて頂きました。どれも素晴らしい取組で、なるほどと思い共感した点もございましたが、一方で他地区でも配色や強弱は違えど、ほぼ同じ取組を全ての地区で行っています。 私自身も、母校を残したい。子供を地域で育てたいと思いますが、もしかしたらそれは私（保護者）の固定概念や主観なのだと、この本委員会で私自身が感じました。 ● 前述の私の肌感が正解なのか、不正解なのか、もっと言うと本素案が正解なのか、不正解なのか、残念ながら誰にも分かりません。正解のない答えを導き出す事は、容易ではありません。ビジョンだからです。人それぞれ・地域それぞれの考え方・価値観・生活があるからです。その方々が偏らない形で集まって本会を開催している以上、全員一致はあり得ませんし、当然だと思います。ただ私たち委員会（館山市教育委員会を含む）は、館山市内の子供たち全てが1mmでも0．1mmだとしても良い環境であるよう願い、精度の高い正解を導く為、全地域から選出された意見（反対も賛成も）に耳を傾け、知恵を絞り議論を重ねている時点で不正解ではないと確信しています。
I		○		● 「神余小学校を愛する想い」を強く持たれる神余地区の皆さんが、在る形が変わったとしても、その場に対する想いを残していただけると嬉しいです。
J		○		● 神余小が子供達にとって最高の場所だと感じている方が多いことを理解しています。地域の素晴らしい文化と伝統が、これまでどれほど大切にされてきたかの証です。 但し、新しい学校になることで、今まで以上に多くの学びのチャンスが子供達に広がります。新しい友達と一緒に学び、様々なことにチャレンジする機会が増えるのは、とても大きなプラスです。この変化を前向きに捉え、子供達の未来を地域の方々もこれまでと変わらずに一緒に支えていけたら良いと思います。 ● また、学校を統合することで運営コストを削減し、その分を教育の向上に充てることも出来ます。
K		○		● 神余地区の熱い思いや郷土愛など、凄いエネルギーを感じます。このような思いや願いは尊重すべきだと思いますが、子供達に「生きる力」の育成や安全・安心で豊かな教育環境を整備するためには、小規模特認校が必要だと考えます。特認校が市内 2 校になると 2 校とも複式学級となる可能性もあります。 全ての地区で満足のいく再編には

委員	存続すべき	存続出来ない	その他	選択理由・意見
				無理があり、ある程度我慢しなければいけない条件が当然出てくると思います。
L		○		● 子供の競い合いの観点から
M	○			● 今回館山市が新しく小規模校を設置する上で、小規模校を必要とする児童及び保護者に利用してもらう必要があります。そのためには、選ばれるための魅力的な内容が必要で、神余小学校は、150年の小規模校の実績、40年の複式学級の経験の中で、学校・保護者・地域が一緒に小規模校としての工夫を重ねてきました。前述の3者の連携体制が出来上がっていることも含めて、神余小学校で小規模特認校を実施することが、館山市の小規模校推進のために最善だと思います。 ● ちなみに、房南小が小規模特認校になった際に、神余小と同じような教育環境が期待できないため「房南小へは通学しない」ということに神余小の保護者の多くが集まって話している場面を見たことがあります。神余小の保護者は、それほど現在の教育環境に満足しています。私としては、神余小を小規模校として存続すべきが最善としましたが、房南小と神余小の 2 校の小規模特認校を存続させることも、2校それぞれの特色を出すことができ、一定数の生徒を集められる見込みがあるのであれば良い案だと思います。 ● 神余小学校の運営に要する費用は、年間 1,200 万円であり市全体の支出 260 億円のうち、わずか 0.04%である。当然市民からの税金であり貴重だと思うし、学校規模によって児童一人ひとりに要する経費も多寡があるのも承知しているが、教育に関する経費はこれらの尺度では測れないものだと思う。 ● 神余の住民は約 400 人程度だと思いますが、それでも一人ひとりが一市民です。神余の全保護者（100%）が、このまま残したいと言っている、そして地区民の8割以上が賛同して、神余報告書を提出した。今一度、私の意見ではなく、神余の総意を今一度深い考察を持ち、存続すべきかどうか、お考えいただけたらと思います。
N		○		● 神余地区住民の皆さんの熱い思いは、理解も共感も出来るところです。しかし、行政は感情論だけで運営は成立しませんし、民主主義国家である以上、少数の意見を実現することは難しいことがあると認識いたします。
	3	11		

● 委員会判断 ☞ 委員長（議長）を除く委員14名のうち「存続」3名、「存続できない」11名の結果により、委員会意見は『存続できない』に決定

【 （論点②） 神余小学校における今後の学校機能に関する委員意見 】

委員	学校施設として活用しない ※市内全学校の学習や社会教育機能として活用（神余多目的キャンパス）	小規模特認校の一部として活用 ※神余キャンパス	判断しない	選択理由・意見
A	○			● 委員同士の議論を聞いたうえでの判断
B	○			● 小規模特認校のキャンパスとしてではなく、市内全ての学校の（里山）キャンパスとして、市内全ての子供達のために、その地域の自然環境などを体験させてあげたい。 ● 教育課程は学校に任される事項であり、小規模特認校の一部として活用する時数等の縛りは無い方が良い。また、子供達の負担軽減（移動に伴う）のため。
C			○	
D	○			● 神余地区が持っている豊かな自然環境をこのままにしてしまうのは勿体ない。廃校の有効活用という点を考えても、市内全ての児童生徒の学習コンテンツとして活用することにより、子供達のより豊かな学びを展開できることが期待される。
E	○			
F		○		
G	○			
H	○			（神余多目的キャンパス提案者） ● 次のステップとして、より精度の高い正解（正解≒館山市内の子供たち全てが一定程度の幸せ）を導く為にも、決定するビジョンに向かい結束する事だと思います。 その一つの形として、市内全ての学校及び行政施設としての「神余多目的キャンパス」の設置です。「小規模特認校プラン」を修正したものです。房南小・神余小のみならず、館山市内小中学校が部活動や学年／クラス等での活用、館山市や市が支援・後援する団体へ貸出等も行う、多目的施設で実質的な建物の存続です。 ● 言ったもん勝ちでは良くないが、神余地区（保護者のみならず区民）の方々の想いを0にすることには、館山市内の子供たち全てを考えると、逆に抵抗を感じる。 ● 例えば保田小の道の駅。神余小に行ったとき、ここで子供たちとキャンプをしてみたいと思った。教育施設となると制限（火気など）が出てしまうが、そういうこと踏まえると、教育施設として外した方が良いと思う。 ● 神余多目的キャンパスという名前にしたのは、そこの狙いというか、何よりも神余小を存続できないということは、委員で決めることだと

委員	学校施設として活用しない ※市内全学校の学習や社会教育機能として活用（神余多目的キャンパス）	小規模特認校の一部として活用 ※神余キャンパス	判断しない	選択理由・意見
				思います。それから下は、神余地区 400 人で人口の1%がいる中で、その中の人の意見を全く無視するというのは、おかしな話かなと思いますので、なるべく自由度を高めるため、神余多目的キャンパスという名前にした。 ● 神余の方々にとっての裁量を増やした施設にするため、学校教育施設から外した方が良いのかなと思います。神余地区 400 人の気持ちを、なんとかここで汲み取りたいなということで、そういう案にしたのが本心です。
I	○			● 神余地域の想いは伝わりますし、キャンパスを残すのであれば、房南以外の市内の子供達が利用できるようにして欲しいです。地域の熱い想いもありますので、それを継承できるようなものがあれば良いなと思います。
J	○			
K		○		● 神余地区の熱い想いや意見を資料で見させていただいて、なんとか名前だけでも残した方が良いのかなと思いました。そのため小規模特認校のキャンパス（案）を支持します。 ● また、キャンパス案だとしても、公民館のような形での活用も可能となっているため。
L	○			
M			○	● 学校施設として活用されなくなるとしたら、今まで培ってきた 150 年、そして 40 年の色々な工夫、そういうことをずっと先生と保護者、地域と官民一体となってやってきたものが、果たしてそれが残るのかどうか、かなり疑問です。 ● 神余小が母体として残らなければ、協力したいけどそれが出来ないような環境になっていく懸念がある。 ● 皆さんが想像するより、もっと深いところで、色々なものが絡まって出来た、この神余の伝統が解体することで終わってしまう。それは、すぐに終わらないと思いますが、何年かかけて衰退の一途となるのかと思うと、結果はすぐに出ないものなので難しいと思う。母体として神余小が残らなければ、他の公民館施設と同じような、なんてことない、形だけ、形骸化したことだけが残って、そういうことになるような気がしてなりません。
N		○		● 神余小をキャンパスとして見た場合には、貴重な教育資源と捉えることが出来ます。これは、館山市全体の教育にとっても貴重な資源になり得ると期待と希望が持てます。神余小を活用できる道筋が

委員	学校施設として活用しない ※市内全学校の学習や社会教育機能として活用（神余多目的キャンパス）	小規模特認校の一部として活用 ※神余キャンパス	判断しない	選択理由・意見
				出来たことは、館山市の成果だと思います。あとは、市民の皆さまのご意見を伺いながら、再考すべきところは再考して、子供達にとってより良い教育環境を整えることが、私達、大人の役割であると考えます。
	9	3	2	

● 委員会判断　☞　委員長（議長）を除く委員１４名のうち「学校施設として活用しない」９名、「小規模特認校の一部として活用」３名、「判断しない」２名の結果により、
委員会意見は『学校施設として活用しない』に決定